

真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のためのフリーペーパー  
いきいき♪

真田

# 生き生き ふるさと通信

第34号 2013年 8月15日発行【真田地域に全戸配布】



8月3日 真田まつりが盛大に行われました



7月27日（土）に、アザレアン農園のジャガイモ掘りが行われました。

周りの「雨が少なかったので沢山取れなかった」の声をよそにそこそこ収穫でき、各事業所に配ることが出来ました。ごろごろ出てくるジャガイモに収穫の喜びを味わいました。





## 第5回 真田三代の活躍

常田 軍三

### — 真田三代の活躍 —

#### 一、 真田家の先祖

##### (三) 歴史への登場

##### ④ おおとう 大塔合戦

前号では真田氏が初めて歴史上にその名を現した大塔合戦について触れました。今回は結城合戦について真田氏との関わりを考えてみます。

結城合戦とは、『日本史用語集』によれば「西暦一四四〇年、足利持氏の子春王丸・安応王丸をかばった下総しもうさ（現千葉県）・常陸とんり（現茨城県）の豪族結城氏朝うじともを関東管領上杉憲実かんのい のりざねが討伐した戦い」といわれています。この戦いは、信濃から遥か遠い茨城県西部の筑波山つくばさんや霞ヶ浦かすみがうらに程近い結城紬の産地として有名な地で行われた歴史上も名高い合戦です。

そのことを『真田町史』は、次のように記しています。

「かまくらくぼうあしかがもあうじ（鎌倉公方足利持氏が自殺した後）持氏の遺児春王丸・康王丸・永寿王はるおうまる やすおうまる えいじゅおうをかついで室町幕府に反抗して、永享一二年三月から結城城に籠もったので、幕府方は鎮圧のため、信濃の小笠原、甲斐の武田、越後の長尾ほか今川・朝倉・土岐の各氏も動員して攻めた戦いです。（中略）次にこの結城合戦に参加した武士の名に注目してみよう」

とあって。さらに「幕府の命令で出陣し、信濃守護小笠原正透しゅづ まさゆきが率いた信濃武士の名が『結城陣番長じんばんちやう』に 百九人も記されている。この中で小県とその近辺の武将を拾うと、屋代・海野・武石・雨宮・大井・祢津・清野などの名がある。一方『永享記』に記されている結城氏朝方として、戦死したり、首を切られた者として、真田、蓬田、臼井、上須などが数えられ、永寿王について結城城に入った芦田・清野両氏や岩村田の大井越前守持光も結城氏朝方であった」と記され、大塔合戦と共に結城合戦に名を連ねた真田氏の歴史上の初見でもあります。

(次号に続く)



# 我が家のペット自慢



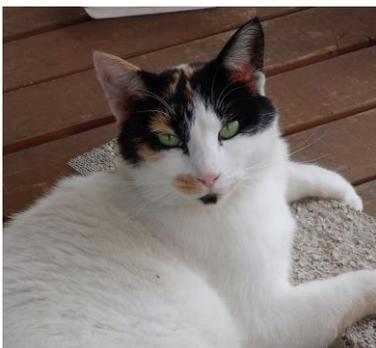
大畑の家 久保田 和子

数年前、大畑の家近隣に何匹かの猫がちらほらと姿を見せるようになりました。いつも仲良く揃っては走り回っていましたが、警戒心が強く最初は職員に寄り付こうとはしませんでした。

それでも人の沢山いるところが気になるようで、少しずつ活動圏が広がって、職員駐車場、ついには大畑の家のテラスにまでちょくちょく顔を出すようになりました。

その中でも、ひと際顔を出していたのが一匹の三毛猫。まだ子猫で好奇心旺盛なわんぱくな女の子でした。背中模様もまた愛らしく、茶色の大きな斑点が可愛いハート型をしていました。

そんな頃からでしょうか。我々職員が彼女を『ハート』と呼ぶようになったのは。



『猫は猫好きな人間がわかる』とよく言われますが、大畑の家の職員も猫好きな職員が大勢いました。たまにチラッと顔を出しては焼き魚の余りなどをもらい、おいしそうに平らげていきましたが、いつの間にか毎日のように顔を出し、ついにはキャットフードまで買ってもらえるように!!!

そして現在……………

一緒にいた母親や友人は一匹、また一匹とその姿を見せることはなくなってしまいました。それでもただ一匹ハートだけは、毎日毎日ご利用者や職員にその愛くるしい姿を見せてくれます。

いつの間にか、テラスには職員お手製のダンボールハウスが!!夏には冷却シートを、冬には毛布とホッカイロまで設備されてしまう溺愛ぶり。診察券だってしっかりあるんですよ。避妊手術の時は相当駄々をこねて連れて行った職員も手を焼いたみたいですが……



毎日通ってこられるご利用者からも「今日はネコちゃん来てないの?」との声も聞かれ、今やすっかり大畑の家のアイドルです。そんな人気を知って知らずか、ハートは今日も元気に大畑の家周辺を巡回しています。





## 真田町の社長さん 第8回



飯嶋林業 飯嶋 充英 さん

手打ちうどん江戸屋のご主人よりご紹介頂き、笑顔の素敵な社長さんにお会いしました。有限会社飯嶋林業の社長さん飯嶋充英さんです。

長年木に関わる仕事を経て、独学で製材技術を学び真田町傍陽で製材工場を立ち上げたお父さんの後を、高校卒業後4年間の修行を経て後を継いだ2代目社長さんです。



真田町に10社近くあった製材工場も現在は2社となり、きざみ仕事と言われた大工さんの仕事・製材は木を読む職人技術が必要で職工と言われた仕事。しかし現在は自動化された工場で行われているようです。現在は安価な輸入木材が増え、「家を建てる」時代から「家を買う」時代になったとの事。木にこだわった設計士さん、工務店さん、施主さんでないとなかなか「家を建てる」にならないようです。



「同じ土地で、同じ空気を吸って、同じ水で育った木で家を建てるのが一番良い」「木は生き物で切られてから何年たっても生きている」「100年かけて育った木は、100年間使える家になる」と、若い頃、当時の大工さんがおっしゃっていたそうです。昔、女の子が生まれると、桐の木を植え、そしてお嫁に行くときに桐の筆筒を持たせた時代もあり、山や木と共に人々の生活が営まれていた事を改めてお聞きできました。

木は地球規模の再生の力を持っていて、元気な山は、光合成や保水など大きな力を持っている、植林し元気な木を育てる事が必要との事です。

東信地区はカラマツが多く、そのままでは建築資材にはならない（特殊加工が必要）ので。現在は梱包材（パレット）の受注が多いそうです。カラマツは、まっすぐ早く育つので、東京湾埋め立て工事の為に植林がされたそうです。何気なく眺めていた山が、世の中の動きや歴史に大きな影響を受けていました。当たり前のように水を飲んでいましたが、水瓶としての山を大切にしていかなければ、そして取材を終えて目に入った山が違った景色に見えました。木の香りが心地よい事務所での取材でした。



次回の社長さんは、飯嶋さんのお父さんの代からお孫さんまで4世代がお世話になっている「理容なかざわ」さんを、次回の「真田町の社長さん」にご紹介頂きました。お楽しみに。



## 上田西高等学校 甲子園出場 おめでとう!!



7月30日に行われた、全国高等学校野球選手権大会 長野県大会で上田西高校が見事優勝しました。おめでとうございます。

## 夏なのに・・・なぜかアカシアの花が咲きました。

7月15日に撮影しました。春の花、アカシアが咲きました。  
植物も異常気象に振り回されているのでしょうか？  
写真はきれいなピンク色のお花です。ホームページをご覧ください。



### 編集後記

- 木に関わる仕事は奥が深いと思いました。（望月）
- 上田西高等学校 甲子園出場おめでとうございます。県大会の決勝戦素晴らしかったです。甲子園でも「西高旋風」吹かせてください。期待しています。（相馬）

発行元：「真田 生き生きふるさと通信」編集部 事務局：高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内  
〒386-2201 上田市真田町長 7141-1 有線 2111  
TEL 0268-72-2781 FAX 0268-61-4010 E-mail keijinfukushi@azarean.jp  
ホームページ <http://www.azarean.jp>

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。次号は2013年10月15日の発行です。